

中野区教育委員会会議録

令和 6 年第 6 回臨時会

令和 6 年 7 月 1 7 日

中野区教育委員会

令和6年第6回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和6年7月17日(水)

開会 午後 6時33分

閉会 午後 7時39分

○場所

中野区役所7階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

○出席職員

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長

井元 章二

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 村杉 寛子

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和7年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後 6 時 33 分開会

田代教育長

定足数に達しましたので、教育委員会第 6 回臨時会を開会いたします。

本会の会議録署名委員は、村杉委員にお願いいたします。

本日の議事は、議事日程のとおりとさせていただきます。

ここでお諮りいたします。本日の協議事項「令和 7 年度使用教科書用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項の規定により、非公開の取扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項のただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

（以下、非公開）

（令和 6 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

田代教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛てに要望書などが届いておりましたら、ご報告をお願いします。

指導室長

要望書等は届いておりません。

以上です。

田代教育長

それでは、前回に引き続き、令和 7 年度使用教科用図書の採択についての協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、これから協議を行う数学についてでございますが、教育長就任前に大日本図書株式会社の数学の教科書の著作、編集に私が関わっておりましたため、教科書採択の公平性の観点から、大日本図書株式会社が発行する教科書がある種目の協議に関わることは

適切でないと判断いたしました。

つきましては、数学については協議する場から退席したいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

それでは、私は、ここで退席いたします。

退室後の教育委員会の会議の進行は、教育長職務代理者の平本委員が引き続き会議を主宰いたします。

それでは、平本委員に会議の進行を引き継ぎいたします。

よろしくお願いいたします。

（教育長 退室）

平本教育長職務代理者

教育長職務代理者の平本です。

ただいま教育長が退室されましたので、職務代理者として会議の進行を行います。

それでは、数学について協議を行います。

まず、村杉委員からご意見ををお願いします。

村杉委員

生徒たちが興味を持ちやすいように、わかりやすくレイアウトされているか、または主体的に学べるように工夫がされているか。また、生徒たちの意見では、問題や解説の多いものを希望する意見もありましたが、このような点も踏まえ、見させていただきました。各者ともわかりやすく、それぞれ問題への取り組み方の工夫がされていましたが、私はA者、D者、E者について、述べさせていただきます。

まず、A者は目次が見やすく、すっきりしている印象がありました。算数から数学へと、小学校から中学校へのつながりを意識させていること。それぞれの生徒の進路や発展に応じて問題が充実していること。「math connect」で数学と周りのものとのつながりを示すことで、より生徒たちの興味を引くものではないかと思いました。各章の「深い学び」のページで、話し合いの活動がイラストにされていることも、協働的な学習についてイメージを持てるようにされているということも学びやすい点かと思いました。デジタルコンテンツも充実しており、問題発見、問題解決の流れがわかりやすいのではないかと思います。

また、E者は、「数学ライブラリー」で身の回りで数学が活用されている場面が紹介され、巻末の「学びをいかそう」で実生活に関連づけた問題に取り組むことができる点は、実践的で学びやすいと思いました。また、問題発見と問題解決の二つの標識を繰り返し使用することで、数学的な見方や考え方が身につけられ、定着されていくのではないかと思います。デジタルコンテンツも6種類のマークでわかりやすくなっているという点でも、いいのではないかと思います。「ふりかえりC B Tコンテンツ」があることも、特徴の一つだと思います。

最後にD者ですが、D者は、色使いやページの構成も見やすいと思いました。主体的に考えたり、話し合っ解決することを丁寧に説明していると思いました。また、章末の問題については、個々に応じた指導がしやすいこと、学びのプロセス、学びやすさは扱いやすそうとの調査報告もありました。学校からの意見でも、章末の「学んだことを活用しよう」や「数学のひろば」などで、発展的な課題を通じて、主体的・対話的で深い学びにつながられているための配慮がされているとのことで、実際に読み進めていっても、丁寧にわかりやすいと感じました。D者も、デジタルコンテンツが充実しており、イメージを膨らませるような工夫がされていました。各章の利用ページには、学びのプロセスが示され、協同的な学習で取り組むことを想定された問題があり、「気づいたことを話し合ってみよう」「よさについてまとめてみよう」など、生徒の意見を聞いたり、まとめたりする活動が取り入れられていることも学びやすいと思いました。

以上より、総合的に考え、D者がよろしいのではないかと思います。

以上です。

平本教育長職務代理者

次に、伊藤委員、お願いします。

伊藤委員

小学校の算数から数学となっていく中で、やはり中学1年生のところでつまづく生徒さんも多いかなと思いましたので、特に中学1年生の文字式やその後の比例関係など、1年生がつまづきやすいところを中心に検討しました。全体としては、数学の考え方や面白さというのが伝わるということと、1人を見たときにも説明がわかりやすいという、この2点を考えながら検討させていただきました。その結果、A、B、C、E者に注目をしたのですけれども、例えばA者は数学の考え方というのがとても伝わりやすく、数学の面白さを理解しやすい工夫が多いように思いました。

また、B者は、選定委員会の調査にもあったのですが、工夫がいろいろあって、音楽と数学ですとか、様々な数学の応用的な面白さが伝わりやすいと思いました。C者も説明が丁寧だったのですが、やや見づらい面があるのかなという感じがいたしまして、E者のほうでは、とても丁寧な説明を、特に文字式のあたりでしているなと思いました。

そういう意味では、子どもたちが興味を持って、きちんと説明を読むことで理解ができるという点で、E者もユニークだなと思いました。ただ、学校からの意見としては、E者は、少し発展的な内容が、問題が少ないのではないかという意見もあったのですけれども、そういったことはほかのドリルですとか様々なことで補えるのかなと思いましたので、基礎・基本が自分で振り返ったときにしっかりわかるという意味で、総合的に考えますとE者がよいのではないかと考えました。

以上です。

平本教育長職務代理者

次に、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

私は、数学については、まず見て、数学に興味・関心を持てるかどうか、そして数学的な見方、考え方とはどのようなものを、中学生が理解しやすい教科書という点から拝見いたしました。

私はA者とD者に注目をしました。それぞれについて気づいたことを簡単に述べたいと思います。

まず、A者については、1年生の最初のほうに「大切にしたい数学の学び方」というコーナーがありまして、これまで各委員がおっしゃっていましたが、中学校に上がって、数学というものに対して不安を持つ中学生にとって、不安をやわらげる効果があるのではと思いました。また、紙面がごちゃごちゃしておらずすっきり見やすいので、子どもはどこを見てよいかわかりやすいのではと思いました。巻末の「数学の自由研究」というコーナーは、発展的に学びたい子どもにとっては、意欲をかき立てられるテーマが取り上げられて、また苦手意識を持つ子どもにとっても、実は数学ってこんなに生活と密接に結びついているんだと、少しでも興味を持てるのではと感じました。デジタルコンテンツが豊富であることも、いろいろな角度で理解がしやすく、子どもにとって役立つと感じます。

D者については、1年生の最初のほうに「大切にしたい数学の見方・考え方」というコーナーがありました。こちらは数学における考え方が大変わかりやすく整理されていて、私

も勉強になりました。どう取り組めばよいか、なかなか数学に対して見通しが持てない中学生にとっては、数学に対して向き合うきっかけになるのではと感じています。こちらもキャリア教育の観点から、最後に数学を仕事に使っている方のインタビューが2ページ分で載っていて、よく言われる「数学って何のために勉強するの?」という、中学生の素朴な疑問に対する明解な答えの一つではと感じました。各節の構成が、例があって、確かめがあって、問いがある。繰り返し出てきますので、自分が「ちょっとここがわからなくなったな」と思ったら、またどこに戻ればよいかも、わかりやすいのではと感じました。

以上のことから、私は中野の中学生が主体的に学びやすい、また苦手意識を持つ子どもにとっても、より取っつきやすい教科書だと受け止められるという意味で、A者かD者がよいかなと思いました。

以上です。

平本教育長職務代理者

では、最後に私の意見を申し上げます。

中学校の時期は数学に苦手意識を持ちやすいということもありますので、実生活や社会と結びつけて、数学を学ぶ意義や楽しさを感じることができるか、また主体的・対話的に探求的な学びを実現できる内容になっているかという観点で見させていただきました。

私が特に注目したのは、A者とD者でございます。A者については、「math connect」で数学が実生活とどれだけつながっているのかを意識させる工夫がなされている教科書であると感じました。また、「大切にしたい数学の学び方」では、問題をつかみ、見通しを立てて、問題解決、振り返り、深めるという流れを大変わかりやすく示してありました。さらに、「数学×スポーツ栄養士」あるいは「数学×伝統工芸士」など、学んだことをどのように生かすことができるのかの視点を数多く提示している点がすぐれており、子どもたちの興味関心を引きますし、キャリア教育としてもよい内容だと思いました。そして、二次元コードが多く、もっと問題を解きたい場合には自主学習を進めやすい教科書であるとも感じました。

次に、D者についてですが、D者は大切にしたい数学的な見方・考え方がしっかり示されている点が、非常にすぐれていると感じました。「もどって確認」というところでは、小学校や前の学習にも戻れるようにする工夫がありまして、新しい章が始まる前には、「この単元を学習する前に」という形で、小学校高学年の学びに立ち返るような工夫がなされておりました。例えば巻末の「学びのマップ」に誘導している欄などもございますので、子ども

たちも自然と系統性、つながりを意識することができますし、主体的に学びを進めやすいのではないかと思います。さらに、「学んだことを活用しよう」では、時差を考えたり、エネルギー消費を少なくするにはどうしたらよいかなどの問いを立てて、実生活や社会との数学のつながりを示す工夫がなされている点もすぐれているなと思いました。また、「環境問題を数学で考える」などでは、学んだことを広げて活用していくことができますし、「数学仕事人」では、数学を利用した仕事を具体的に紹介しておりまして、キャリア教育としてもよいのではないかと思います。また、二次元コードについても充実している内容であったと思います。

以上を踏まえて、私としては、D者がよいのではないかと思います。

平本教育長職務代理者

ほかに、各委員から発言はございませんか。

D者のご意見が強いようですが、いかがでしょうか。

出た教科書としましては、A者とD者と、あとE者になると思ひまして、D者がよいという意見が私を含めて3人で、A者かD者かということで、A者をご指摘されたのが岡本委員ですかね。伊藤委員がE者ということで、今、一番多いがD者で、その次に指摘が出ているという意味では、A者とE者ということになるかなと思うのですけれども。

一度、ここで休憩いたします。

(休憩 午後6時49分)

(再開 午後6時59分)

平本教育長職務代理者

それでは、会議を再開いたします。

数学については、A者、D者、E者の複数の候補が出ておりまして、本日の協議で一つの候補に選定することが難しいと判断し、数学については、一つの候補ではなく、複数候補を挙げることにしまして、次回以降の委員会にて、再度協議により決定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

平本教育長職務代理者

それでは、候補として、A者、D者、E者を採択の候補とすることに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

平本教育長職務代理者

ご異議ございませんので、数学については、A者、D者、E者を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、数学の協議が終了しましたので、教育長は入室してください。

(教育長 入室)

平本教育長職務代理者

教育長が着席しましたので、会議の進行を教育長へ引き継ぎいたします。

田代教育長

それでは、引き続き私が会議の進行を行います。

それでは、英語についての協議を行います。

まず、伊藤委員からご意見をお願いします。

伊藤委員

英語は、教科書が多く、どれも少しずつ特徴がありながらも、楽しく英語が学べるような工夫が各者見られまして、大変に迷いました。その中であえて特徴を私なりに判断したところを申し上げます。

A者は、読みや書きや、いろいろな技能がバランスよく、また内容的にも全体にバランスがよいように思いました。

B者は、特に会話などが実用的な印象を持ちまして、生きた会話を中心として学べる部分があるのかなと思いました。

C者は、好みの問題かもしれませんが、教科書の流れが少し酌み取りにくい部分があるかなと思いましたのと。

飛んでE者は、音に関してトピックスのまとめのようなこととか、まとめが入っていて、わかりやすいかなと思いました。

また、F者は、読みのところがしっかりしていて、まとまった形で読んだ後の実感を、子どもたちが持てるのではないかなと思いました。

そのような内容を踏まえまして、英語はこれから世界の中で生きていくに当たって非常に重要な科目だと思いますし、また小学校との接続のことなどもございますので、個人的にはしっかり読めるということで、F者もとてもしつかりと思ったのですが、中野区の軽井沢でのイングリッシュキャンプですとか、そういったことも拝見していますと、やはり生きた形で英語が学べるということも子どもたちにとっては導入としてよいのかなと思いま

して、B 者がよいかなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員、お願いします。

岡本委員

私は、英語の教科書については、小学校外国語活動からうまくつないで、英語によるコミュニケーションに慣れ親しむことができることという観点を中心に考えました。結果として、A 者、B 者、D 者に注目をいたしました。

A 者は、最初に小学校で学んだことの振り返りがありまして、中学校への接続という意味で、丁寧に構成されているなと感じました。全ての単元で最後のまとめ活動に向けて、小さい活動を積み重ねていくという構成になっていて、こちらも基礎・基本をしっかり学ぶことができるのではと思いました。海外に目を向けるトピックも多く、多様な文化を学ぶことができると感じました。

B 者については、こちらも 1 年生の冒頭、数ページにわたって、楽しみながら小学校で学んだことを思い出して、生かす活動が盛り込まれていて、子どもたちが中学校へスムーズに移行できるように工夫されていると感じました。また、その意味では、中学校の先生にとっても、小学校外国語活動について理解をいただけることになるかなとも思いました。

「Action」というところでは、本文の題材と関連づけられたテーマで表現活動を行うので、学んだことをどう活用するかを実践できるようになっている点がよいと思いました。あと、発展的な内容として、例えば外国のハンバーガーショップへ行こう、英語で注文してみようという、中学校が結構興味を持てそうな内容が工夫されていると感じました。

D 者については、スタンダードな紙面のつくりだなという印象です。他の発行者の教科書に比較して、あまり情報が多くない分、かえって先生方がご自身で授業の工夫ができる余地があるのではないかなと思いました。子どもたちにとっても、「今ここをやっているよ」というのがはっきりわかりやすいつくりとなっているのかもとも思いました。読み取った内容を要約したり、表にまとめたりといった、創造性の高い発表活動が設けられているので、思考力、判断力、表現力の育成が期待できると思いました。

結論としましては、中学生がより主体的に学べる教科書という点では、A 者か B 者がよいと思いました。あるいはシンプルで、先生方の授業を高める可能性があるという意味では、D 者もよいかなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

私は、英語については、小学校から中学校への接続や連携が、生徒にとって理解しやすい内容になっているかという観点と、英語を学ぶ意義や楽しさを感じられる内容かという観点を重視させていただきました。私が注目したのは、A、B、Cでございます。

まず、Cについては、小学校の復習から始まっておりまして、中学校との連携がスムーズになっていると感じました。「A l l A c t i v i t y」で学習のまとめがありまして、その後に「P r o j e c t」で、領域を統合した発展的な学びに取り組ませるという流れはわかりやすく、巻末には基本文のまとめが資料として整理されておりまして、二次元コードも利用しながら、自主学習も進めやすい内容であると感じました。

A者については、学習の見通しを立てやすい構成になっておりまして、单元ごとに、左上で、小学校で学んだことについて触れている点が良かったです。学年が上がっていくにつれて、スピーチであったり、ディスカッションであったり、ミニディベートであったりと、話す力をつけることができるような内容にもなっていると感じました。また、ユニバーサルデザインやエシカルファッションなどを題材にしており、SDGsに対する理解を深める内容にもなっておりまして、デジタルコンテンツも充実しておりまして、生の音声を聞くこともできました。また、学んだ内容をベースにしたゲームの要素もありまして、生徒の興味・関心を引く工夫がなされている教科書であると感じました。

最後に、B者は、小学校で学んだこと、できるようになったことの確認が、導入でしっかりとまとめられているのがよい点だと思いました。視覚的にも見やすい構成になっておりまして、「英語早わかり」でグラマーポイントを示して、スピーチ原稿を書く、友達の前で説明する、コメントや質問をするなど、英語を実際に使う流れがしっかり示されておりまして、文法についても丁寧であったと思います。また、パラリンピック、手話、ユニバーサルデザイン、海洋プラスチックごみを題材にした英文を取り扱うなど、多様性やSDGsに関するトピックが多かったという印象です。国際的な視野に立って英語を学び、活用する意義を実感できるような内容になっていると感じました。さらに、デジタルコンテンツは、リスニングの問題もありまして、聞く力を伸ばすこともできますし、単語アプリや英語すごろくなどは、生徒の関心を引くコンテンツになっていたと思います。

以上を踏まえて、私としては、迷ったのですけれども、B 者がよろしいのではないかなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、村杉委員、お願いします。

村杉委員

英語に慣れ親しみ、自分の意見を即興的に伝えるということの重要性は、大人でも感じる場所です。生徒たちが楽しく学んで、英語を好きになってほしいという点から見させていただきました。どの教科書も、色使いもよく、わかりやすく、それぞれの工夫がありましたが、中でも A 者、B 者、C 者について述べさせていただきます。

A 者は、紙面全体のバランスもよく、大変見やすく、様々な国の紹介も多く、多様な文化を学ぶことができると思いました。また、小学校から高校への接続も整理され、学びやすいのではないかと思います。会話に使える「T o o l B o x」も、適宜用意された巻末の「S m a l l T a l k」用のリストも、やり取りの即興性につながるのではないかと思います。デジタルコンテンツも充実しており、家庭学習につながるという点では学びやすいと思いました。音声のスピードが調整できたり、データによっては字幕の有無も選べるということで、すぐれていると思いました。

C 者については、文字が大きく読みやすいと思いました。中学生が知りたいと考えるような題材や、身の回りの社会的な課題について考えられるように設定されているという学校からの意見もありましたが、実際に読み進めても、イラストを用いた説明など、生徒の興味を引き、即興性も大切にされている点で、学びやすいのではないかと思います。また、各パートに「S m a l l T a l k」が設定されている上に、適宜「S m a l l T a l k P l u s」という設定があり、テーマに沿って即興的なやり取りができる場面が設定されているという点は、会話を進めていく上で重要な点かと思えます。

最後に、B 者ですが、B 者は英語の文字がはっきりしていて読みやすいと思いました。やり取り、即興性を意識した言語活動については、各パートに「T h i n k」という自分のことを考えさせる発問があり、学びやすいのではないかと思います。イラストを交えてどのような表現ができるようになるか、明示されているところがわかりやすいという学校からの意見もありましたが、実際に読んでみても、イラストや写真も多く、大変わかりやすいと感じました。デジタルコンテンツも、単語のアプリなど、充実していると思いました。

「Our Project」に向けて、導入、展開、まとめの順で話を構成すること、話すことで図を整理することなど、発表の構成を扱っていることは、伊藤委員もおっしゃいましたが、中野区でのイングリッシュキャンプでのスピーチに通じるという点でも、実践的で大変よろしいと思います。

以上より、総合的に、私はB者がわかりやすいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

英語は、6者の教科書がありました。四つの者は大判で作成し、二つの者は少し小さいサイズの教科書でした。大判だと重さの問題があるかと思いましたが、大判の者は160ページ前後、その他の者は170ページ前後でした。ページ数にも違いがありました。大判の者は、特徴を生かして写真やイラストを大きく活用し、英語の本文だけでなく、情景把握をしやすいように工夫されていました。

さらに、各者とも、小学校で英語を既に学んできていますので、小学校とのつながりを大切にしていました。コミュニケーション力の育成については、各者、ページに独自のコーナーをつくり、話し合う活動を積極的に取り入れていました。A者では「Activity」、B者とC者は「Small Talk」、D者は「Let's talk」など、各者の特徴があらわれていました。教科書にこのように表現されていると、生徒は、今日の授業ではこのような話し合い活動が行われると事前に考えられて、取り組みやすいと感じました。

ICTの活用については、各者ともに英単語の発音や本文の朗読、文法事項の説明などが整備されていて、家で予習や復習をするのにもとても効果があると感じました。特にB者は、二次元コードを利用すると、「対話」「Listen」「語句」「動画」に分かれていて、とても工夫されて、学習しやすいと感じました。また本文の問いについても、各者いろいろ工夫されていて、「聞いてみよう」「話してみよう」や「Listen」「Speak」「Write」など、記号で分かれていて、学習しやすく、自分の力を評価しやすい教科書になっていると感じました。

また、英語の教科書の中にも、各者、日本の文化を工夫して取り入れていました。A者は、着物や絵馬、すごろく、B者は、駅弁やコンビニ弁当、和菓子、C者は、日本の昔話や落語、お坊さん、E者は、お正月のたこ上げや書き初め、カルタなど、各者の工夫を感じま

した。

また、大切な文法事項は、A者は「Grammar for Communication」と題して、ページ数も変えて生徒たちが学習しやすい構成になっており、使いやすく、わかりやすい内容でした。英文は、横に長くなるため2行にならないように、大判の教科書の効果も発揮されていました。同様に、B者は「英語早わかり Grammar Points」として、同じように見やすく、わかりやすい構成になっていました。特に1年生の疑問詞のまとめは、イラストもあり、とてもわかりやすいページでした。C者、D者も、グラマーのページを多くして解説してありました。E者は「Active Grammar」、F者は「フォーカス・オン・フォーム」として別ページで取り扱っていて、各者の工夫を感じました。

最後に、生徒たちが主体的にこの教科書で取り組むことができるか、そのような活動を重視して、教科書を見てみました。

A者では、1年生で自分紹介のポスターをつくる、夏休みの絵日記をつくる。2年生では、10年後の自分にメッセージを書く、自分で課題を決めて主体的に取り組むなどの活動のページが設定してありました。また、ユニバーサルデザインやSDGs、テイラー・スウィフトさんの歌でLGBTQの擁護や、マララさんの講演の中で女子教育と多様性なども取り上げていました。クラスでアンケート調査をして、その結果を発表したり、エシカルな商品のPRをしたり、グラフや表を読み取らせて、その結果を英語で伝える活動など、新しい時代に合わせた活動がA者の中に取り込まれていました。

B者は、1年生の最初に英語に親しみやすいようなゲームやコーナーをたくさん取り入れてありました。同様に、主体的に学ぶ活動としては、1年生ではスピーチ原稿のつくり方を丁寧に説明し、教科書に記入できるスペースも十分にありました。私が選んだ1枚の写真、海外で売り出すラーメンのCM、日本に住む外国人におすすめのスポット紹介など、生徒が興味や関心をもって取り組める学習内容が豊富にありました。そのほか、広島の実験と折り鶴、自然課題や海洋ごみ、マララさんの演説など、幅広いテーマを取り上げていました。

他の発行者も生徒の興味や関心を高め、主体的に取り組ませるために、いろいろな工夫がありました。大谷翔平さんや藤井聡太さんを写真で取り上げたり、手塚治虫さんの漫画を本文で取り上げたり、羽生結弦さん、八村塁さん、池江璃花子さんがクイズに登場したり、大谷翔平さんの生い立ちを本文で取り扱っている者もあり、様々な工夫を感じました。

各者いろいろ工夫がありましたが、私は総合的に判断してA者とB者がとてもいいと思いました。その中で、皆さんの意見にもありましたけれども、B者が、様々な工夫もあり、二次元コードも活用しやすく、取り組みやすいのではないかなと思い、私はB者を一番に推したいと考えました。

他に、各委員の方からご発言はありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、全体的にB者という意見が強いようですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、英語についてはB者を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、英語についてはB者を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日最後の音楽一般について協議を行います。

まず、伊藤委員からご意見をお願いします。

伊藤委員

音楽一般につきましても、両者ともとても魅力的で迷いましたが、私としましては、B者のものが、目標を持って音楽に参加がしやすいのではないかなと感じました。音楽をどう感じたり、ここの単位では、どの部分を特に感じたり考えたりするのかというような、そういう目標ということが子どもにわかりやすく伝わるので、主体的な参加ということがしやすいのかなと思いました。

また、全体的にととても見やすいと思いましたし、あと音楽の楽しさということも、わかりやすくなるように教材が配置されているように思われました。学校の意見ですとか選定調査委員会のご意見を拝見いたしましても、B者のほうにつきましては、教材の分量や、1年生、2年生、3年生の配列など、現場の授業と照らし合わせても適切であるというようなご意見もございましたので、子どもたちが楽しく、主体的に参加できるということで、B者がよいのではないかなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員からご意見をお願いいたします。

岡本委員

私も伊藤委員と同じで大変悩んだのですが、A者については、歌うための準備というところはとてもわかりやすく書かれていたと思います。基礎・基本という意味で、とても大事なページだなと思いました。対話的な学びという意味では、鑑賞をして意見交換ができるページもありました。正解がない芸術という問題に対して意見交換するというのは、とても意義のある教育活動ができるのではと思いました。

B者については、こちらも自分の考えを書くページがあって、それとともにグループで話し合うページというのもやはりあって、これも対話的な学びという意味ではとても重要だなと思いました。創作の活動などについても、詳しく書かれていて、やや発展的な内容かなとも感じました。私は、中学生が、音楽により親しんで楽しんでいける教科書として、A者とB者どちらもよいなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いします。

平本委員

私は、音楽については、感性を働かせて、生活社会と関連づけながら、主体的・対話的な学びを深められる内容になっているか、また、中野区の子どもたちにとっての使いやすさはどうかという観点で見させていただきました。どちらの教科書も大変工夫されており、私も大変悩みました。

まず、A者については、B者と比べると、体験的な内容が多く、情報量が少なめ、シンプルであるという印象でしたが、かえって基本的な事項をしっかり学ぶことができるというところを重視した教科書になっていると思いました。また、思考、判断、表現力が育つような「a c t i v e」という欄が様々な箇所に掲載されておりまして、学んだことや考えたことを記載できるようになっている点もよかったですし、「話し合う」という欄があるので、生徒たちが対話的な学習を進めやすい内容になっていると思いました。

他方で、B者については、知識的にも詳しい内容になっておりまして、音楽に興味を持つ仕掛けがたくさんある点がすぐれていると感じました。音楽に苦手意識がある場合には、情報量が多いと感じるかもしれませんが、鑑賞と演奏だけではなくて、創作についても触れるなど、音楽の味わい方について深い学びを実現できる内容の工夫があったと感じました。また、例えば音楽の学びを通して、社会とどのようにつながるかを考える、生活や社会の中

の音や音楽という特集などは、視野を広げてくれるような題材でありましたし、オーケストラの写真などは中野区の生徒にとってもよい題材であると感じました。

したがって、大変迷ったのですけれども、生徒の意見の中には、応用や発展のある内容がよいというような意見もありましたので、こうした観点も踏まえまして、私は発展的な内容も含んでおりますB者がいいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

次に、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

生徒の意見にも、見た目もよくてテンションが上がるものとありましたが、楽しく学べるということに注目して見させていただきました。A者、B者とも、どちらを手にとってみても、わかりやすく、大変迷いました。

A者に関しては、教科書が大きく、写真もわかりやすく、大変見やすかったです。基礎的なことは丁寧に書かれ、大変学びやすいと思いました。また、冒頭の「学習MAP」では、学習の進め方が提示され、教材と育成を目指す、資質・能力・領域・分野の相互の関係性がわかりやすく記載されていることも、生徒が学びやすいと思いました。デジタルコンテンツも、「まなびリンク」として、動画、音声、ワークシートが閲覧でき、使用しやすいと思いました。

B者は、教科書も大きく写真も鮮明で見やすく、「学びの地図」で学習の見通しが立てられ、学びやすいということ。自分の考えを書くページと、グループで話し合えることができる箇所がよかったという学校側からの意見もありました。また、興味を持つような内容が取り上げられている点、非常に新しい曲もあり、生徒たちも親しみやすいのではないかといい点で、学びやすさにつながると思いました。また、デジタルコンテンツは、二次元コードから、インタビュー、ピアノ伴奏、ワークシートを閲覧することもでき、大変充実していると思いました。私は、最初はA者かと迷いましたが、最終的にいろいろ読み進めたらB者ということで、B者を選ばせていただきました。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

まずA者についてですけれども、皆さんおっしゃったように、「アクティビティ」というページがあって、生徒が進んで話し合い、学び合うための活動例を示してありました。教科

書の最初のページで、「学習MAP」を活用して学習の進め方を提示し、生徒が学習に取り組みやすくなっていました。さらに、「With My Heart. 音楽はメッセージ」というコーナーがあって、著名な音楽家から生徒へのメッセージを紹介して、音楽に興味や関心を高める工夫をしていました。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」というコーナーがあって、演奏者が出向いて音楽を楽しんでもらう活動の様子を掲載していました。様々な工夫がありました。編集の工夫としては、「Let's Try!」というコーナーで、指揮の仕方を学ばせたり、様々な工夫がありました。また、日本の音楽と芸能とのつながりでは、1年生で琴の学習や尺八の紹介、2年生では雅楽や能、獅子舞や日本の祭りの紹介、3年生では歌舞伎や長唄があり、それぞれの特徴がわかりやすく示されていました。また「コンピュータと音楽のつながり」という学習のコーナーもあり、とてもよいと思いました。ICTの活用では「まなびリンク」として、動画や音声、ワークシートを見ることができるようになっていて、音楽の著作権についても、注意点や学校でのデータの取扱いについて丁寧に紹介されていました。

続きましてB者ですけれども、「学びのコンパス」で、キャラクター学習の手順や意見交換をする様子を吹き出しで示すことで、主体的・対話的で深い学びを実現するための学習ができるような工夫がされていました。目次の次に1年間の学びを見通せるページを掲載し、各教材との関連も視覚的に確認できるようになっていました。また、編集の工夫としても、俳優や音楽家へのインタビューを掲載しており、生徒が音楽への興味や関心を高める題材がたくさんありました。特に生活や社会の中の音や音楽のページでは、生徒が日常生活や社会の中での音楽について、つながりを実感できるような内容になっていました。また「My Voice」や「My Melody」など、様々なコーナーがあって、発声の仕方を勉強したり、創作して旋律をつくる学習をしたり、指揮を学ぶということもできるようになっていて、とても工夫されている教科書だと思いました。日本文化とのつながりでも、1年生では雅楽と琴、そして日本の民謡、2年生では歌舞伎や文楽、郷土の祭り、3年生では尺八や能、そして最後に海外の音楽とのつながりもあり、生徒が様々な音楽に触れる機会を教科書の中に感じました。それから、特徴として各ページは基本的に白を貴重とした画面に統一してあって、文字もとても読みやすい工夫がありました。ICTの活用についても、インタビューやピアノの伴奏、ワークシートを見ることができて、とても工夫を感じました。

両者ともに様々な工夫がありましたけれども、私は総合的に見てB者がいいと思いました。

た。

他に、各委員の方からご発言はございますでしょうか。よろしいですか。

総合的に見て、両方ともいいということでしたけれども、各委員の先生からB者という意見が多いように感じましたので、音楽一般については、B者でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。

ただいまの協議の結果、音楽一般についてはB者を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、音楽一般については、B者を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、音楽の中で、器楽合奏についての協議を行います。

それでは、最初に伊藤委員からご意見をお願いします。

伊藤委員

器楽も、非常に迷いました。一般以上に迷ったのですが、総合的に考えてB者がいいかなと思いました。

と申しますのも、学校や調査委員会でも同じことが書かれていたのですが、例えばリコーダーなど、楽器の使い方について、非常に見やすく、丁寧な説明がありました。やはり器楽は、実際に楽器を手にとってチャレンジするということがたくさんありますので、そして、リコーダーはどの学校でも多く使われるものかなと思ひまして、また苦手意識の出やすいところなので、そうしたところが大変見やすいということがポイントかなと思いました。また、目次もととてもわかりやすく、全体に具体的に学ぶ工夫があつて、よいのではないかなと思いました。

ただ、中野区では、琴が伝統的な楽器として使われることが多いと思うのですが、琴につきましてはA者のほうが詳しいようにも思ひましたので、大変難しい判断だったのですが、やはり説明のわかりやすさということで、B者がよいのではないかなと思ひました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員、お願いします。

岡本委員

私も、ほぼ伊藤委員と同じような感想を持ったのですが、A者、B者双方ともに基礎・基本がしっかり押えられて、またクラスメートと一緒に演奏できる楽譜が多く載っていて、対話的な学習にも発展しやすいと感じました。中学生が多く使うリコーダーについても、丁寧な説明がなされていたのはB者だなと思いました。

A者、B者どちらもいいと思うのですが、どちらかというとA者かなという印象です。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

器楽についても、音楽一般と同様の観点で見させていただきました。私も、ほかの委員と同様、どちらの教科書のよさもありましたので大変悩んだのですが、A者については、見開きの2ページで学ぶ内容を見通すことができるような工夫があって、わかりやすく、よかったと思います。リコーダーについても、基本的な技能の習得を目指す内容になっていましたし、中野で扱っている琴についての説明も、姿勢と構え方、親指演奏、最後は「六段の調」に挑戦という流れで、過不足なく説明されておりまして、わかりやすい内容でしたので、楽器の演奏に苦手意識がある子も取り組みやすい教科書であると感じました。

他方でB者は、やはりほかの委員もご指摘のとおり、発展的な内容も多く、演奏方法の説明や楽器の説明なども、丁寧で写真も見やすくなっていると思いました。詳しい説明がありますので、興味・関心のある生徒が、自分で音楽への学びを深められるような案内になっていると思いましたし、中野区で扱う琴の演奏法については、A者もB者もそれぞれのよさがありましたので、とても悩んだのですが、「六段の調」を演奏するところまでではなく、旋律をつくるというような発展的な課題があったという点と、アンサンブルなども多く載っておりまして、対話的な学習を進める工夫があるという点も踏まえて、生徒の意見の中には、先ほども申し上げたとおり、応用や発展のある内容がいい、あるいは吹奏楽の楽器や打楽器などの楽器が載った教科書がよいという意見もあったことを踏まえまして、私はB者がよいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

次に、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

他者と協同しながら、音楽の表現、楽器の演奏を楽しくできるという点で見させていただきました。私も、A者、B者ともに大変悩みました。

まず、A者は、演奏の仕方が写真や絵を使って書かれており、わかりやすいという学校からの意見も参考になりました。実際に読んでいっても、生徒たちが学びやすいのではないかと思います。また、著名な音楽家からのメッセージも紹介され、より身近に感じられるのではないかと思います。

B者は、目次が見やすく、楽器の上からの写真も鮮明でわかりやすく、学びやすいと思いました。教材ごとの目標が生徒に語りかける口調で、主体的に学ぶきっかけになると調査委員会からの報告もありましたが、実際に生徒たちに主体的・対話的で深いイメージを持たせられるのではないかと感じました。

また、伊藤委員と同様に、中野区で使用する琴の使い方のページも両者を比較してみましたが、A者は琴の爪の種類も詳しく掲載されていましたが、B者は琴の演奏のページも詳しく丁寧に説明されているという点で、大変迷いましたが、私はB者がわかりやすいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

この器楽合奏については、A者、B者ともにリコーダーや琴、ギターの楽器の演奏の仕方を、写真を交えて非常に丁寧に説明してあり、写真もととても見やすく、比べられないぐらいすばらしい教科書になっていました。二次元コードで実際の演奏も聞くことができ、生徒たちにとっては、音楽がなかなか苦手な生徒も、演奏してみるとこういう音になるのだということがよくわかって、両者の工夫を感じました。

本当に決められなかったのですが、伊藤委員からもありましたが、中野区では琴の演奏をやっている学校が多いので、琴のページの写真がとても見やすく、わかりやすいなと感じましたので、総合的に見て、私もB者を一番にしたいと思いました。

ほかに、各委員から発言はございますか。よろしいですか。

全体的にB者という意見が強いようですが、よろしいですか。

それでは、各委員ともB者という意見が多いようなので、まとめたいと思います。器楽合

奏については、B者でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、器楽合奏についてはB者を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、器楽合奏については、B者を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日の協議は、これまでにしたいと思います。

次回は、7月23日に、社会（地理的分野）から協議を行います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第6回臨時会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午後7時39分閉会